

1 学校教育目標

校訓「進取 友愛 節度」のもと、高い志を持ち、変化の激しい社会において自らの未来を切り拓き、「地域共生社会」の担い手となる人材を育成する。

2

目指す姿（学校像・園児児童生徒像・教師像）

- ・何事も自分事として捉え、自分の頭で考え、自己決定した上で、責任ある行動を取る力を育成する学校
- ・課題の解決に向け、多様な知識・技能・特性を持つ他者と協同的に取り組み、違いを認め合い、存在を育成する学校
- ・地域や社会を学びのフィールドとし、地域の協力を得ながら、保護者や地域からの期待に応える教育活動を展開する学校

3 現状と課題（重点目標設定理由）

- ・地域と連携したボランティア活動等を通し、社会に貢献する取組を行うため、ボランティア活動等自主的な活動の育成を重点とした。
- ・業務改善等を行い、働き方改革を推進すること、喫緊の課題であるため働き方改革を重点とした。

4 目標

【中期経営重点目標】
 ○教科学習と探究学習を2つの柱に据え、知識やスキルの習得だけでなく、様々な「ホンモノ（生きた教材）」を通して自分は何に關心があり、何を深めたいのかという問いに常に向かい、広い視野で実行錯誤を重ねながら、自分なりの正解や学び方を見つけ、積極的に自己実現を図ろうとする生徒を育成する。
 ○安全・安心を基本に据え、生徒自身が自らのあり方を考え、主体的に行動することがお互いをリスペクトする学校風土の醸成を図る。
 ○教職員が心身ともに健康で幸福感ある生き方を示す。その上で、本校の経営方針・特色、教育活動等を積極的に発信して理解を得ることで、地域を含めたすべての学校関係者が満足度の高い学校を目指す。

【(中間) 評価】

11月に教職員対象の「探究力向上研修会」を実施した。事前研修会に関する悩み事やアンケートで収集し、その悩みに対するアドバイザーをする形式で現状の探究への支援を行うと同時に今後の探究の在り方と講師に示してもらいたい。現在と未来の両方へのアプローチを意識した。12月の職員研修会で、R8年度の探究全計画について、34Pの資料を作成し、説明した。これらまでの探究システムの課題や成果を踏まえ、自律的な探究及び教員の負荷を考え、最適なシステムを構築し実装段階にきている。各学年の学年会、特に1学年で毎週探究の情報共有を実施した。

短期経営重点目標

全体での研修会は、探究に関する制度説明(4月)・探究に関する研修会(11月)・R8探究全計画説明(12月)の3回、各学年会等での探究に関する情報共有を含めた研修会計3学年合わせて15回で、合計18回実施(努力指標3)探究に関する研修会(11月)でのアンケートでは約7割の教員が肯定的な回答をした。(成果指標3)

評価結果

アンケートで授業見学を行ったと回答した教員の割合が72%であった。(努力指標2)探究活動を意識した授業改善を行ったと回答した教員の割合が75%であった。(成果指標3)

主な具体的方策

「未来計画」「総合的な探究の時間」における教員の伴走支援の視点や方法を全教員で共有するため、研修会の開催や資料の配付、打合せ等を計画的に実施する。

実施状況

11月に教職員対象の「探究力向上研修会」を実施した。事前研修会に関する悩み事やアンケートで収集し、その悩みに対するアドバイザーをする形式で現状の探究への支援を行うと同時に今後の探究の在り方と講師に示してもらいたい。現在と未来の両方へのアプローチを意識した。12月の職員研修会で、R8年度の探究全計画について、34Pの資料を作成し、説明した。これらまでの探究システムの課題や成果を踏まえ、自律的な探究及び教員の負荷を考え、最適なシステムを構築し実装段階にきている。各学年の学年会、特に1学年で毎週探究の情報共有を実施した。

分析 (○)・改善策 (◎)・支援要望 (☆)

○1年未来計画については毎週の学年会で情報共有をスプレッドシートを用いて行い、必要に応じて教育研究部から支援や視点の共有を実施した。(結果として1年探究における講話回数、PW回数が年々増えている。講話なし、PWなし、R7は講話6回、PW7回実施)
 ◎教員の伴走支援の視点のマニュアルを4月配布の教育研究部発行の冊子に掲載したが、伴走マニュアルの質的改善に取り組みたい。また実効的な探究支援として2年の探究システムを改善し、探究に関する質的担保及び教員の負荷軽減を両立する民間教材の導入や生徒の個別ニーズに対応するため、市教委の予算により大学生・大学院生を活用したメンター及び本校で構築・運用するプログラムメンター支援システム「Sensepath」を活用する。
 ☆対外交渉や生徒との壁打ちに長けたヒューマンスキルの高い人材が必要であるため、高校コーディネーターの暫的改善及び増員をお願いしたい。また、グローバル探究科として最大限の成果を残す必要があるが、探究活動に初めて取り組む教員がほとんどでノウハウがなかったり、毎週2単位の授業の企画・運営の負担が大きいため、教育研究部員の授業時数の軽減及び各学年に複数人の配置をお願いしたい。

【教務部】

<授業改善>
 「主体的・対話的で深い学びを引き出す指導方法」を研究し、授業や定期考査の質的改善に向けて取り組みを行う。

アンケートで授業見学を行ったと回答した教員の割合が72%であった。(努力指標2)探究活動を意識した授業改善を行ったと回答した教員の割合が75%であった。(成果指標3)

生徒一人ひとりの学習状況を把握し、能力・適性に応じた学習指導を通して自ら学び、探究し解決する能力の育成を図るため、教員が他の教員の授業を見学する期間を設定する。

2週間の授業見学週間を年間2回実施した。2回目は学校へ行こう週間との同時開催とした。教員の授業力向上を図った。

○今年度の実施効果について授業者、授業見学者ともに、「相互見学をすることで刺激を受け、授業改善のきっかけとなった」等、肯定的な意見であった。また、授業見学を行った教員の割合は70%程度に留まった。授業見学を行えなかった主な理由は、教科・分掌・担任等の業務や行事で見学する時間が確保できなかったことであった。
 ◎授業見学の時間の確保は従前からの課題であり、今年度も実施方法を検討し課題改善に取り組みながら、想定した効果は得られなかった。より効果的な方法等を構築し、来年度も引き続き授業改善に取り組みたい。

【進路指導部】

<キャリア教育>
 探究学習との連携を構築しながら、全ての生徒がそれぞれの真の志望について考え、第一志望とする進路に最後まで挑戦することができると進路指導を行う。

全員受験の模試で、事前指導と事後指導の実施状況が、いずれも100%であった。(努力指標4)
 1・2年生11月模試において、3教科のうち2教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒が受験者の30%以上であった。(成果指標3)
 3年生4月段階での第一志望校を受験した生徒が31.6%であった。(努力指標2)
 3年9月の時点で、4月段階での第一志望校を引き続き維持している生徒が58.6%であった。(成果指標3)

1・2年生において、模試の事前指導・事後指導を徹底し、模試を短期の学習目標とした取組を定着させる。

年3回の「学びの基礎診断」において、教科、学年により評価・分析・振り返りを実施した。

○学びの基礎診断教科・学年による評価・分析・振り返りは定着し、模試の事前指導、事後指導に活かされている。
 ◎理3年生の1年次は、3教科のうち2教科の到達度が国公立大学挑戦レベル以上の生徒は31.7%であった。理1年生は33.4%、理2年生は32.4%であり、やや上昇傾向にある。一方、1教科以上が国公立大学挑戦レベル以上の生徒の割合はほとんど変わっており、得意教科を踏まえて、得意教科の学習に取り組ませる事前事後学習としてClassiが運動課題を充実させているので、これを活用させたい。

3年4月模試を廃止したため、5月に進路志望調査を実施した。その志望と実際の出願を追跡した。

3年生において、4月当初の第一志望校を受験するために、総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜等を考慮させ、第一志望校に出願できるように指導する。

<p>【生徒部】 ＜ボランティア活動等自主的な活動の育成＞ 生徒会を中心として、全校生徒とともに地域の課題を発見し、解決を図る。</p>	<p>ボランティア活動の情報発信を、二カ月に一回行った。(努力指標 2) ボランティア活動への自主的・自発的に参加した生徒は218名であった。(成果指標 2)</p>	<p>学校周辺の清掃活動やその他地域に係るボランティア活動の情報発信を行い、生徒の主体的・自律的なボランティア精神の育成を促す。</p>	<p>文化祭や体育祭で、生徒自ら企画を立案し、目標を達成するために手立てを考えた。文化祭では、これまでになかった講堂での有志発表などを実施した。また、下半期は、あすなろ会と合同で、地域清掃を行うなどボランティア活動も実施した。</p>	<p>○生徒会執行部を中心に学校行事の内容を改善していった。文化祭では、例年通りの運営で講堂での有志発表を初めて開催した。発表グループは生徒会執行部がオーディションを行い選定した。体育祭では、3年生の学年種目を生徒会執行部で決め、競技運営やルール作成等すべて行なった。実施予定のエントリーシステムについて、年度当初は未来会議中心で行なう想定だったが、生徒会執行部が中心となり進めている。企画立案から行なう、今年度はクラスマッチ形式で開催された。その中で、要項や各学年の種目毎のルール等の作成を行った。 ◎学校行事やボランティア活動において、目標を明示し、アンケートなどを活用して振り返りを行うことで、より生徒が達成感を得やすくなるようにする。 ☆生徒の自主的・自発的な活動をさらに実現していくためには、それを補佐する生徒部の教員数が不足している。より良い運営のために増員を要望したい。</p>
<p>【生活環境部】 ＜多様性や違いを認め、互いの存在を認め合う人材育成＞ 「性教育」講演会を、今年度より「健康教育」講演会と名称変更し、「人権教育」とともに講演会の充実をはかる。</p>	<p>講演会の回数 2回(努力指標 3) 生徒対象アンケート ①98.2% ②99.2% (成果指標 4)</p>	<p>「性」「健康」「人権」に限らず、異文化、ジェンダー、性的マイノリティなど、様々なテーマについて多様な背景を持つ講師やゲストを招き、講演会やワークショップを開催する。</p>	<p>6月に「攻める眠りで人生が変わる」というテーマで健康教育講演会、10月に「デートDV」をテーマに人権教育講演会を実施した。</p>	<p>○満足度が高かったことから、生徒の実態に即した課題解決に向けた講演会を実施することができた。 ○さらさらには生徒の悩みをくみ取り、生徒が聞きたいと思えるテーマ・講師を会を実施する ☆講師によっては高額な講師料が必要な場合があるので、その際には金銭的な援助をお願いしたい。</p>
<p>【生活指導部】 ＜いじめの防止・早期発見・適切な対応＞ いじめの防止、早期発見に努める。いじめに対して迅速かつ適切な対応を行う。</p>	<p>学年会や関係委員会などで各情報交換の場を持った。(努力指標 3) 関係部署で対応したいじめに関する事案数が年間3件以上であった。(成果指標 3)</p>	<p>学年会との連携を密にして日頃から生徒が示す変化やシグナルを見逃さない態勢づくりにつとめる。教職員全体で情報と取り組むの姿勢を共有し、必要に応じて関係機関・専門機関と連携する。</p>	<p>生徒情報を共有するスプレッドシートを作成し、教職員間での情報共有を実施した。佐伯警察署の少年課の担当者事例やその対応等の協議をした。</p>	<p>○4月当初の生徒指導研修にて「違う口で同じことを言う」など共通認識を持つことで、教職員組織全体で生徒に係っていく雰囲気醸成に繋げることができたが、生徒指導情報を基に複数で課題のある生徒の指導・支援に繋げる連携に改善の余地がある。 ◎学年職員室の利点を活かして、生徒情報交換の場に生徒指導主事が参加する等の場を設定する。</p>
<p>【総務部】 ＜開かれた学校づくり＞ 学校紹介やホームページを充実させ、保護者や地域及び中学生にやさしく具体的に具体的な情報を提供する。</p>	<p>広報活動の見直し・改善に関する会議の場を設けた回数が5回未満であった。(努力指標 1) ホームページ等の学校行事における広報活動において、来校者数が550人以上であった。(成果指標 3)</p>	<p>各分学、学年、部活動からもホームページでの発信を促し、学校生活や地域探究活動、入試情報などタイムリーな情報発信に努める。</p>	<p>ホームページの更新が年度当初の行事予定や基本情報の掲載にとどまり、日々の生徒の活動や授業の様子など、リアルタイムな情報発信が十分にできなかった。</p>	<p>○生徒の写真等で慎重になるべき場面が増えたこともあり、ホームページやインスタグラムの更新が滞ってしまった。 ○校外に発信する広報的業務よりも、校内の業務に追われる時間が多く、広報活動に集中する時間が取れなかった。 ◎日々の生徒の活動や行事の様子をタイムリーに入手できるような広報スタッフ制度を企画し、生徒による広報活動が成立するシステムを構築する。 ◎ 即時的な情報発信をするために、広報用スマートフォンを購入する。 ☆ 広報的業務を総務部から切り離し、別の分掌とする。</p>
<p>【管理職】 ＜働き方改革＞ 新学科開設や部活動指導の負担など、様々な業務が必要となる中で、業務改善を進め、全教職員の年間月平均の勤務時間外在校時間を4.5時間以下にする。</p>	<p>6月に定時退校日を設定し、実施率の平均は、45%であった。(努力指標 2) 年間月平均の勤務時間外在校時間が45時間以下の人の割合：(4月～12月) 54% (成果指標 2)</p>	<p>各自で定時退校日を設定し、確実に実施する。</p>	<p>年休取得を推進するとともに、各教官室等に提示することと、各勤務時間外勤務の削減の意識向上を図り、部活動や分掌の業務改善について、個別の声掛けを行った。</p>	<p>○定時退校日を設定し、各教官室等に掲示して意識づけを図ったが、実施率が多い月でも、50%にしかなっていない。 ○年間月平均の勤務時間外在校時間が45時間以下の割合は最も低いのは5月(38%)で、最も高いのは8月(90%)であり、年間平均の54%は、昨年度の47%よりは改善しているが、依然として働き方改革が進んでいない。 ◎最低でも週に1回の定時退校日を設定できるように、各自が意識的に部活動指導や分掌業務、担任業務等、業務改善ができるよう、学校全体で進めていきたい。</p>

6 その他の報告事項

<p>5 学校関係者評価に関する事項(主な意見等) ＜学校評価について、2回実施した保護者対象学校評価アンケートの結果から、入学したことについての満足度や本校の生徒であることを生徒が誇りに思っていることなど、安定して肯定的意見の割合が高いが、探究活動の充実については、1回目よりも2回目の方が肯定的割合が少し下がっているため、生徒へのガイダンスやフォローアップを強化する必要がある。また、アンケート回答率が60%～50%であるため、回答のリマインドをするなどの工夫をする必要がある。＞ ○グローバル探究科について、普通科ではないと誤解されていたり、どのような学習をしていくのかがはつきりわからないと言われたりするなど、内容の周知が十分できていないところがあるため、中学校・中学生・保護者への広報をもっと充実させる必要がある。</p>	
--	--